Call 公募	HORIZON-CL3-2026-01-FCT-06
Project	**Prevention and mitigation of misuse of synthetic biology for bioterrorism purposes** HORIZON-CL3-2026-01-FCT-06
Topic description トピックの説明	期待される成果： 本プロジェクトの成果は、以下のすべての期待される成果に寄与することが見込まれる： ● 欧州の政策立案者、研究コミュニティ、バイオテクノロジー企業、および関連するセキュリティ実務者に対し、バイオテロリズムや合成生物学がもたらす脅威についての理解を深めるとともに、この文脈において何を監視すべきか、何をどのように規制すべきかについて、法的な観点から徹底的な分析を行うこと； ● 関連する科学界において、合成生物学の研究が悪意のある目的に利用される可能性があることへの認識が高まった。 スコープ： バイオテロの脅威が高まっている背景には、近年の科学技術の進歩、とりわけ合成生物学、遺伝子工学、関連する商用サービス、および公開データベースへのアクセスが容易になっていることが挙げられ、その結果、非国家主体や悪意を持つ個人によるこれらへの入手可能性が高まっている。遺伝子編集やシーケンシング技術を含む、個人によるバイオハッキングやコミュニティラボの普及、機器のコスト低下、および使用の簡便化は、意図せずして生物学的脅威に関する知識や技術の拡散を助長し、バイオテロリズムへの新たな道を開く可能性がある。検知における課題、とりわけ生物兵器の潜伏期間が長いという点は、専門家による実験室での高度なツールを用いた特性解析と、簡易で現場展開可能な手法の両方を考慮に入れ、適時の介入を可能にし、大規模な死傷者の発生を最小限に抑えるための、より優れた同定技術の開発が急務であることを浮き彫りにしている。適切に兵器化された生物剤は核兵器よりも致死性が高くなる可能性があることを踏まえると、その国境を越えた影響については、特に注視する必要がある。欧州各国で最近発生した生物毒素に関連する事件は、生物攻撃の実現可能性を如実に示している。ドローンの軍事利用が拡大していることは、生物兵器にまで及ぶ可能性のある憂慮すべき傾向を浮き彫りにしており、脅威の様相をさらに複雑化させている。生物兵器による攻撃がもたらす可能性のある経済的・社会的影響を踏まえると、医療制度や社会全体に及ぶ甚大な影響を軽減するためには、強固な予防・備えの措置が不可欠である。 提案では、特に合成生物学の文脈において、欧州で台頭しつつあるバイオテロの脅威に、法に則った方法で対処することが求められる。バイオテロリズムの発生確率は低いものの、影響は甚大であるとの認識のもと、コンソーシアムは現在および将来のリスクを見直し、監視の強化が必要な分野を特定するとともに、公共の治安と安全を確保するために必要な規制の枠組みのうち、未整備な部分を洗い出すべきである。さらに、提案においては、多様なコンソーシアムを結集させ、バイオテロリズムに対する理解、予防、備え、および対応を強化するとともに、この喫緊の課題に対する包括的なアプローチを構築すべきである。 このテーマで採択された提案間の連携を図り、重複を避け、相互補完性を活かし、さらなる波及効果を生み出す機会を最大限に活用すべきである。このトピックにおいて、研究およびイノベーションの内容へのジェンダーの視点（性別およびジェンダー分析）の組み込みについては、その研究活動の目的と関連がある場合に限り、検討すべきである。 このテーマの下で採択された提案については、プロジェクトの実施期間中、ユーロポール・イノベーション・ラボとどのように連携していくかについて、具体的な構想を示すことが求められる。同様に、提案が薬物関連の問題に関するものである場合、プロジェクトの実施期間中、成果の検証を含め、EU 薬物庁と連携することが求められる。 最後に、提案書には、「犯罪・テロ対策」の項目における「はじめに」で示された、該当するすべての考慮事項が盛り込まれることが求められる。 技術成熟度レベル - 完了したプロジェクトにおいて期待される技術成熟度レベル

	本プロジェクトの終了までに、各活動において TRL 4～5 の達成が見込まれている（一般付属書 B を参照）。